

企画展

天台宗開宗1200年記念

天台を護る神々

山王曼荼羅の諸相



観覧料：一 般 600円 (480円)
 高大生 500円 (400円)
 小中生 200円 (160円)

※()内は15名様以上の団体、大津市内在住の65歳以上の方、大津市内在住の障害者の方の割引料金

☆前売券は、大津市内の各観光案内所、大津市民会館、ローンチケット(Lコード55242)、京阪津地区の主なプレイガイドで9月13日より販売

○休館日 10月/10、16、23、30日 11月/6、13日

平成18年 **10/7** 土 ~ **11/19** 日

開館時間：午前9時～午後5時 (入室は4時30分まで)

大津市歴史博物館

〒520-0037 大津市御陵町2-2 TEL.077-521-2100 www.rekihaku.shiga.otsu.jp

◆主催/大津市・大津市教育委員会・大津市歴史博物館・文化庁・京都新聞社・天台宗・比叡山延暦寺・日吉大社 ◆後援/KBS京都

企画展

天台を護る神々

—山王曼荼羅の諸相—

◆会期／平成18年10月7日(土)～11月19日(日)

◆休館日／10月10、16、23、30日、11月6、13日



重要文化財 日吉山王本地仏曼荼羅図 延暦寺蔵



新羅明神像 園城寺蔵

山王曼荼羅は、比叡山延暦寺を守護する日吉社の神々の姿を描いたものです。

日吉社は、比叡(日枝)山への信仰からはじまり、天台宗の発展とともに平安時代後期には山王七社と呼ばれる体制が整います。その後、中七社・下七社を加え、山王二十一社と呼ばれる神々の体系が形成されました。ちなみに日吉社を山王と呼ぶのは、最澄が中国の天台山国清寺の地主神山王元彌真君にならったものです。

中世の日本仏教は、神仏習合という考えの中で、仏菩薩が衆生済度のため、仮に神の姿となって現れたとする本地垂迹説を生み出します。この考え方に基づいて作成されたのが山王曼荼羅です。山王曼荼羅の図像は、本来の姿である仏菩薩(本地仏)で描いた作品や、神の姿(垂迹形)で描いた作品などが作られました。

本展ではこうした山王曼荼羅の諸相を、多数の初公開作品によって紹介します。また比叡山麓の坂本では、現在も山王曼荼羅を祭る信仰が生きており、その一端も紹介します。

天台を守護する神は山王のみでなく、様々な独自の神を祀ってきました。園城寺で祀られる新羅明神は、円珍が仏教を学ぶため中国に渡った帰路に感得したと伝えられる護法神です。このほか、赤山明神や摩多羅神など天台にまつわる神々が天台の教えを護ってきました。これらの神々を描いた作品も紹介します。

山王上七社一覧

旧社名	現在の社名	本地仏
大宮(大比叡)	西本宮	釈迦如来
二宮(小比叡)	東本宮	薬師如来
聖真子	宇佐宮	阿弥陀如来
八王子	牛尾神社	千手観音菩薩
客人	白山姫神社	十一面観音菩薩
十禅師	樹下神社	地藏菩薩
三宮	三宮神社	普賢菩薩



日吉山王垂迹神曼荼羅図 西教寺蔵



日吉山王宮曼荼羅 日吉大社蔵

会期中、一部展示替があります。

◆関連行事◆

◎10月14日(土) 13:30～15:00

「溪嵐拾葉集について」
田中貴子(甲南大学文学部教授)

◎10月21日(土) 13:30～15:00

「山王曼荼羅の図像について」
寺島典人(本館学芸員)

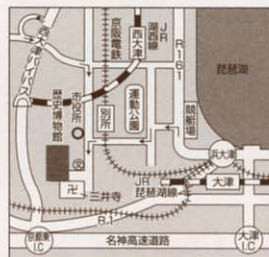
◎11月11日(土) 13:30～15:00

「山王信仰をめぐる」
菅原信海(妙法院門跡門主 早稲田大学名誉教授)

区分	個人	団体・前売
一般	600円	480円
高校・大学生	500円	400円
小・中学生	200円	160円

※()内は15名以上の団体、大津市内在住の65歳以上の方、大津市内在住の障害者の方の割引料金

☆前売券は、大津市内の各観光案内所、大津市民会館、ローソンチケット(Lコード55242)、京阪津地区の主なプレイガイドで9月13日より販売



【交通機関】

京阪電鉄石坂線別所駅より徒歩5分
JR湖西線西大津駅より徒歩15分
JR琵琶湖線大津駅よりバス10分(別所下車 無料駐車場(乗用車約70台))

大津市歴史博物館

〒520-0037 大津市御陵町2-2 TEL.077-521-2100
http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp

※事前申込み要・有料(詳細は当館までお問い合わせください)